

信頼性技術、評価自動化技術

概要

当社では、数か月の長期にわたる試験の精度を維持しながら期間短縮を図り、人手による作業を機械化しヒューマンエラーの防止や工数の低減を図ることを目的として、評価の自動化、効率化に積極的に取り組んでいます。

パソコン、モバイル、デジタルAV機器から車載、医療、交通関係まで多岐にわたる製品を対象に培ってきた評価・解析の技術と合わせ、短期間にコストを抑えて結果を得るための評価自動化をご提案いたします。

背景

開発製品の品質向上に欠かせないのが信頼性評価。例えば製品によっては振動・衝撃・温度などの複数項目で問題が発生することが多いため、振動解析や熱解析など、複数のアプローチから信頼性の評価が必要となっています。またヒューマンエラーや工数増を抑えるため、低減省人化・効率化の向上が求められています。

当社の特徴

- 実装信頼性(基板)評価・解析から製品としての信頼性評価、フィールド不具合解析までトータルでサポート致します
- 多岐にわたる製品を対象とした評価の経験を活かし、コンサルティングも含めた信頼性評価サービスをご提供致します
- お客様の製品に合った治具(ハードウェア)や制御アプリ(ソフトウェア)をカスタムで作製致します



- ✓ 事例1:工数削減、工程短縮の取組み
発熱の大きい供試品を自動制御のファンで個別に冷却。工数を削減し温度遷移時間を大幅に短縮
- ✓ 事例2:不具合検出率向上の取組み
SSDアクセス方式の高効率化と専用治具による精度向上で、工程短縮と不具合検出率向上を実現

電動パワーステアリング電子制御ユニットを始めとした車載製品や蓄電池盤などの大型設備の信頼性評価も行っています。また、各種ストレージ製品(メモリ製品)やそれらを搭載した製品全体を対象とした評価もご依頼いただいています。

活用が期待される分野

様々な視点からアプローチし、自動化、効率化による新たな付加価値をご提案します。

- 精度の視点
試験の不具合検出率を向上させる試験方法の立案やアイデアの実現に必要な治具の開発
- 短縮の視点
試験目的に配慮しながら、恒温槽内の温度変化や装置の切り替えにかかる時間を削減し、期間を短縮
- 効率の視点
人手では困難な膨大な回数の繰り返し動作や測定、記録を自動化し効率化を図ることでコストを削減

※記載されている社名・商品名・サービス名などは、それぞれ各社が商標として使用している場合があります。

東芝デベロップメントエンジニアリング株式会社

Copyright 2019, Toshiba Development & Engineering Corporation.

DME-T1901_05